防災特集 1

流域治水で激甚災害に挑む

気候変動による自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、河川全域で対策を行う「流域治水」が始動しています。各関係機関が、ハード整備・ソフト対策に一体となって取り組んでいます。

流域治水への転換

久留米市では、平成30年以降、観測史上最大を記録する大雨が3年連続で発生しました。地球温暖化による気候変動の影響で、今後も想定外の災害が頻発すると見込まれています。筑後川でも、これまでさまざまな治水対策を行ってきましたが、ますます激甚化する自然災害に対応することは困難になっています。国土交通省は、あらゆる関係者が機関の垣根を超えて協働して行う「流域治水」への転換を進めています。

筑後川に関わる機関が集結

流域治水を進めるため、令和2年9月に「筑後川流域治水協議会」が発足しました。久留米市をはじめ23市町村、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、九州地方整備局などの関係機関で構成しています。協議会では、流域治水に関する取り組みをまとめた「流域治水プロジェクト」を作成。今年3月に国のホームページで公表しています。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、被害対象を減少させるための対策、被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を柱にしています。河道掘削や堤防・護岸工事、防災情報伝達訓練の強化や簡易水位計の設置など、ハード整備・ソフト対策が一体となった防災・減災対策に取り組んでいます。

㊐広域事業調整課（☎0942・30・9093、FAX0942・30・9714）

国は、令和4年の出水期までの完成を目指し、枝光排水機場（東合川一丁目）の増築工事を行っています

近年の降雨量比較

※黒文字の数字は、観測史上1位　観測地：久留米観測所（津福）

時期	1時間最大雨量（㎜）	3時間最大雨量（㎜）	24時間最大雨量（㎜）	48時間最大雨量（㎜）	総雨量（㎜）/観測日
平成30年7月	40.5	–	**279.5**	**383.5**	386.0（7/5～8）
令和元年7月	**90.0**	**177.5**	**335.5**	**402.5**	474.5（7/18～23）
令和元年8月	60.5	147.0	330.0	366.5	408.0（8/26～29）
令和2年6月	**92.5**	–	193.5	194.0	194.0（6/26～29）
令和2年7月	48.0	105.5	**360.5**	**483.0**	735.0（7/5～10）

平成30年7月豪雨の主な浸水箇所

市は、国・県と連携し各河川の氾濫原因や流域の特性を検討し、浸水対策を進めています。

被害の大きい流域を対策

久留米市は、平成30年7月豪雨で、特に被害が大きかった流域を、国・県と連携して治水対策を進めています。令和2年3月に、金丸川・池町川流域、下弓削川・江川流域の総合内水対策計画を策定しました。

排水路や道路側溝から流れ込む雨水を集め、河川へ排除するための雨水幹線の整備や、河川の水位が上昇した時に、雨水を貯留して下流の負担を軽減するための貯留施設の整備なども進めていきます。令和2年度から約5年で整備する予定です。現在、国・県と連携して、陣屋川・大刀洗川流域、山ノ井川流域の治水対策の計画策定に向けて協議を進めています。

併せて、令和元年7月豪雨で、建物や道路冠水などの浸水被害が大きかった筒川流域の対策も進めていきます。

㊐河川課（☎0942・30・9075、FAX0942・30・9712）

雨水を集めるための新たな雨水幹線を整備します（完成イメージ）

新たにコンクリート壁を作り、河川が上昇しても氾濫しないようにかさ上げをしています